

高等学校第3学年 地理B 学習指導案

期 日 平成24年10月15日(月)第5校時

場 所 熊本県立御船高等学校 講義室2

指導者 教諭 堤田 浩介

1 単元名

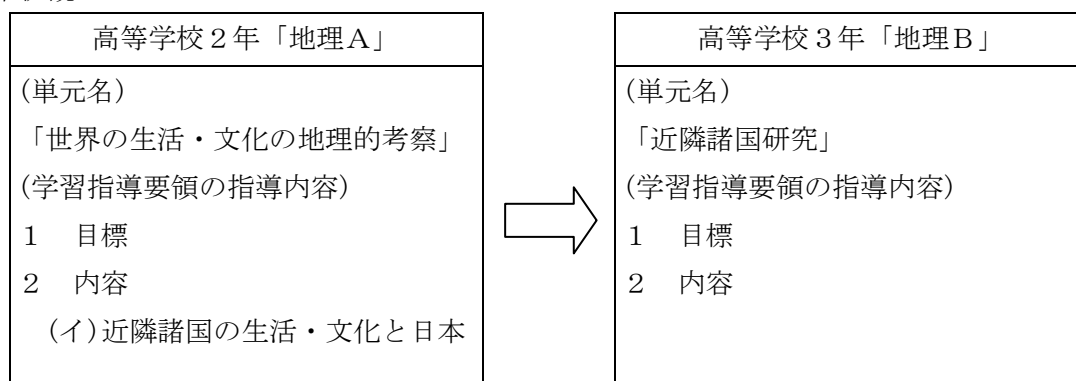
「近隣諸国の研究」(帝国書院)

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、グローバル化する現在社会において、日本の近隣に位置する三国(韓国、中国、ロシア)に焦点をあて研究する。それぞれの国の自然地形・気候、生活・文化、産業などを地域の環境条件と関連付けて追究し、日本との共通性や異質性及び異文化を理解し尊重することの必要性を捉えさせる。また、近隣諸国と日本との交流のあり方を理解し、これからの交流のあり方や日本の役割についても考察していく。

(2) 系統観



(3) 生徒観

○クラスの様子

本クラスは、普通科芸術コースでそれぞれ音楽、美術、書道の三つの分野に分かれている。生徒たちは、それぞれの分野に日々努力を重ね、多くの賞や資格を取得している。卒業後は、大学進学、専門学校、就職と多様な進路をめざす生徒が集まっている。学習意欲に大きな差が見られ、全体的に落ち着きがなかったりすることもあるが、身の回りの日常生活に密接な内容から話をすることによって、ほとんどの生徒の興味・関心を引き出すことができるため、その工夫が必要である。

○地理Bの授業における生徒の様子

学び方の経験値や知識の量に個人差があり、学習の習慣が身についていないなど学習面での実態に幅がある。また、気持ちが不安定な生徒や自己肯定感が低い生徒もいる。しかしながら、発言はとても活発であり、興味関心が湧いた課題に対しては、積極的に取り組もうとする生徒も多い。また、学びたいという意欲も持っている。

○本単元に関する生徒の様子

本校では、2年次に地理A（2単位）、3年次に地理B（4単位）を学習する。現在、学習している地誌の単元においては、2年次の内容よりもより深く、また、2年次、3年次前半までの地形や自然環境、農業や工業などの産業を系統的に学んだ後に学習するため、より理解しやすい内容である。生徒たちも自分の生活と比較し、なぜそのような文化や習慣が生まれたのかを自分で考えられるため、発問や授業の構成次第では、興味・関心を引き出すことができ、生徒たちも意欲的に学ぼうとする姿勢が見られる。

(4) 指導観

- 学習に対する見通しが持ちやすいように、授業の流れや目標を視覚的に提示する。
- 作業的な学習活動（調べ学習）や学習形態の工夫（グループ学習）を行うことで、生徒の主体的な学習活動につながるようにする。
- 生徒の実態や特性に配慮した支援や指導を行い、生徒が自らの力でワークシートを完成できるようにし、達成感や満足感が味わえるようにする。
- 生徒の行動観察や自己評価シートの活用により、興味・関心や理解度の把握と評価を行う。
- 生徒がどの資料をどのように活用した、ワークシートのどのようにまとめて発表したかから、生徒の思考力・判断力・表現力を見取るようにする。

Bプロジェクト 学習評価と指導の改善の視点から	
高等学校における教育上特別な支援を必要とする生徒への効果的な指導のあり方とパフォーマンス評価等を位置付けた授業設計について検討し、その中で生徒の実態や特性に配慮した指導の工夫を行い、どの生徒にとっても分かりやすく、また、達成感・満足感が得られるような授業づくり考えていきたい。 （研究の視点） ① 教育上特別な支援を必要とする生徒への効果的な指導について ② 知識・技能を活用する学習活動とパフォーマンス評価等を位置付けた授業設計	

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	近隣諸国の研究について、韓国（中国、ロシア）をとりあげ、日本との共通性や異質性、日本との交流に着目して考察する。
関心・意欲・態度	韓国（中国、ロシア）と日本の共通性・異質性や交流について関心を高め、意欲的に取り組むとともに、異文化の理解や尊重の必要性、近隣諸国との交流の在り方をとらえようとしている。
思考・判断	韓国（中国、ロシア）と日本の共通性・異質性や交流に関する地理的事象から課題を設定し、追究するとともに、近隣諸国との交流の在り方や日本の役割を考察している。
技能・表現	韓国（中国、ロシア）と日本の共通性・異質性や交流に関する資料や情報を地理的に追究する技能を身に付けるとともに、結果をまとめたり発表したりし

	ている。
知識・理解	韓国（中国、ロシア）の地理的事象について環境条件に関連付けて理解するとともに、異文化の理解や尊重の必要性、近隣諸国との交流のあり方を理解しそれらの知識を身に付けている。

4 指導・評価の計画（9時間取扱い 本時1／9）

次	時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ※プロジェクトの視点から	評価基準（基準B） （評価方法）
1	1 本時	韓国と日本の自然地形・気候と生活・文化について、共通性と異質性を理解する。	※自己評価シートを活用して自己評価及び感想記入を行う。	思考・判断（観察、ワークシート、自己評価シート） ・韓国と日本の自然や文化、習慣について比較し、その違いを理解することができている。 ・韓国と日本を比較するために必要な情報を教科書や資料集、資料プリントから選ぶことができている。 表現（観察、発表、自己評価シート） ・韓国と日本の違いについて、その考察のための資料や情報の根拠が一つ以上説明されている。 ・比較した内容を発表することができている。
	2	韓国と日本の産業について、共通性と異質性を理解する。	○前時の学習と同様の流れで、「産業」についての調べ学習を行い、理解できるようにする。	
	3	韓国と日本の交流について考察する。	○前時までの学習内容と関連させて、交流について考えていくようにする。	
2	1 ～ 4	中国と日本との共通性と異質性、日本との交流に着目して理解する。	○「韓国の研究」と同様の流れで学習を行う。	
3	1 ～ 2	ロシアと日本との共通性と異質性、日本との交流に着目して理解する。	○「韓国の研究」と同様の流れで学習を行う。	

5 本時の学習

(1) 目標

韓国と日本の自然や文化、習慣について、共通性と異質性を調べ、韓国の気候についてまとめることができる。

(2) 評価基準

	思考・判断	表現
観点の説明	・見通しを持って、筋道だった考え方をしている。 ・解決に必要な知識・技能を適切に使うことができている。	・解決にいたる過程を的確に表現することができる。 ・まとめた内容を、適切なことばを使って説明することができる。
A	・韓国と日本の自然や文化、習慣について比較し、その違いを理解するとともに、なぜ違いが生まれるのかを考察することができる。 ・韓国と日本を比較するために必要な情報を教科書や資料集、資料プリントから正確に選び、活用することができる。	・韓国と日本の違いについて、その考察のための資料や情報の根拠を十分に説明されている。 ・比較した内容を整理し、韓国と日本の違いや特徴などを適切なことばを使って発表することができる。
B	・韓国と日本の自然や文化、習慣について比較し、その違いを理解することができる。 ・韓国と日本を比較するために必要な情報を教科書や資料集、資料プリントから選ぶことができる。	・韓国と日本の違いについて、その考察のための資料や情報の根拠を一つ以上説明されている。 ・比較した内容を発表することができる。

(3) 展開

過程	学習活動	○主な発問・指示	○指導上の留意点及び評価 ※Bプロジェクトの視点	備考
導入 10分	1 学習課題へ興味・関心を持つ。 (1) 事前調査の結果を知る。 (2) 本時の学習の流れと目標について知る。	○みなさんは、韓国がどんな国だと思っていますか。 (事前調査の結果を示す) ○韓国国旗の意味するものを知っていますか。 ○本時では、韓国について学習をしていきます。 ○本時は、ここに示す流れで学習を進めていきます。	○事前調査と関連する写真を提示し紹介する。 ○国旗の意味を簡潔に説明する。 ※本時の学習内容と学習の流れ、目標を視覚的に提示し、授業の見通しが持てるようにする。 ○学習内容に興味・関心を持っているかを観察する。	実態調査の結果 テレビ 初付ボード

	2 学習課題を知る。	○ワークシートの記入方法を説明します。 ○課題について教科書や資料集・資料プリント等から調べてまとめてみましょう。	○前時に学習したニュージーランドの例を示し説明する。 ※見通しを持って課題解決ができるよう、作業手順を示しておく。	ワークシート
	【パフォーマンス課題】 今年の12月に、初めて韓国旅行に行くことになったあなたの友達から、「韓国はどんなところか教えて。」と頼まりました。そこで、韓国について丁度勉強中のあなたが、韓国と日本の自然や文化、習慣などを比較することで、韓国の気候について説明をしてあげましょう。			
展開 25分	3 学習課題について調べる。 (1) 作業1：韓国の自然や文化・習慣についての特徴や気付きを書き込む。	○作業手順に沿って、調べていきます。まずは、それぞれに作業1を行ってください。 時間は、10分間です。	※拡大した資料を黒板に提示する。 ※机間指導を行い、調べ方について分からない生徒がいれば、助言する。 【評価：思考・判断】 (観察・ワークシート)	拡大資料
	4 グループでの意見交換とまとめをする。 (1) 作業2：意見交換し新たな気付きを書き込む。 (2) 作業3：韓国の気候について整理する。	○グループでの意見交換とまとめを行います。時間は、10分です。 ○まず、作業2の意見交換をしましょう。そして、自分で調べたこと以外に分かったことがあれば、赤色でワークシートに書き込んでください。 ○それが終わったら、作業3の韓国の気候について、それぞれにまとめてください。	※話合いがしやすいように少人数のグループで行うようにする。 ※机間指導を行い、必要に応じて意見交換がスムーズにいくよう声かけや助言を行う。 【評価：思考・判断】 (観察・ワークシート)	
	5 調べたことを発表する。	○各グループから、代表の人に発表してもらいます。	【評価：表現】(発表) ○発表した内容から、キーワードとなる言葉は板書する。	
整理 15分	6 学習のまとめを行う。	○発表してもらった内容について、補足説明をします。 ○韓国と日本の食べ物や生活、文化の違いの背景には、気候の違い(大陸性気候)が関係していることが分かりましたか。	※生徒の発表に対して、良かった点を賞賛した後に、まとめの補足説明を行うようにする。 【評価：関心・意欲・態度】 (観察・自己評価シート) ※具体的で前向きな評価ができるようなシートにする。	自己評価シート
	7 学習したことを振り返る。 (1) 自己評価をする。 (2) 感想を発表する。	○最後に自己評価シートでこの1時間の授業を振り返ってみよう。 ○感想を発表してくれませんか。		